



写真で見る
日本人の生活

「年末の日本」

ねん まつ に ほん

このコーナーでは、国際交流基金日本語国際センターが発行している、日本語教育用「写真パネルバンク」シリーズを使って、初等中等教育機関で日本語を教える先生方が、どのように日本人の生活を紹介できるかを提案していきます。また、文型、単語、漢字は初級の学習者でも読めるようにやさしいものを選びました。今回は、年末に日本人がどんなことをするかを紹介します。

おせいぼ



日本では、12月に、ふだんお世話になっている人にお礼の気持ちとして、「おせいぼ」というプレゼントをおくりします。

11月の終わりから、デパートで、おせいぼの売り出しが始まります。おくるものと、おくり先を決めるとデパートがとどけてくれます。

おせいぼの予算は1つにつき3000円から5000円くらいです。品物はよく使われ、長持ちする食べ物や飲み物が多いです。

おせいぼで一番人気なのは、ウイスキーやビールなどのお酒やクッキーなどのおかしです。料理をするときに使う調味料も人気があります。

お歳暮に贈られるものベスト5の品物と予算

	1987年		1996年
1位	国産ウイスキー 5,000 (円)		洋菓子セット 3,000 (円)
2位	洋菓子セット 3,000		のり 3,000
3位	サラダ油 3,000		ビール 3,000
4位	調味料 3,000		のり 5,000
5位	のり 3,000		サラダ油 3,000

(三越の日本橋、銀座、新宿、池袋、横浜5店の総売上数量)
日鉄ヒューマンデベロップメント / 日本外国語専門学校 『日本を話そう 15のテーマで学ぶ日本事情』
<第2版> (ジャパントイムズ) より



大そうじ

12月には、多くの家庭で1年に1回とくべつなそうじをします。このそうじを「大そうじ」とよびます。

大そうじのときは、ふつうはそうじしない所もきれいになります。これには、家をきれいにし、お正月をむかえる、という意味があります。

学校や会社でも、大そうじをすることが多いです。



クリスマス

日本では、クリスマスは年中行事のひとつとして考えられています。特に、小さい子供のいる家庭では、クリスマスをいいうことが多いです。クリスマスツリーをかざったり、ローストチキンやクリスマスケーキを食べたりします。

子供たちは、クリスマスプレゼントをもらうことを、とても楽しみにしています。



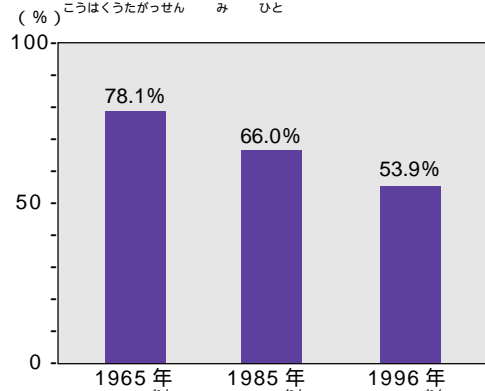
紅白歌合戦

12月31日は「大みそか」で、さまざまな行事があります。大みそかの夜、NHK（日本放送協会）では「紅白歌合戦」があります。

「紅白歌合戦」は、その年に人気があった歌手が男性のチーム（白組）と女性のチーム（紅組）にわかれて歌います。

「紅白歌合戦」はとても人気があるプログラムで、歌手にとって、出場することは、大きなよろこびです。

紅白歌合戦を見た人のパーセント



(ビデオ・リサーチ社関東地区調べ より作成)

1960年代には10人中8人の日本人が紅白歌合戦を見ていました。今は、2人に1人ぐらいです。最近の若者は、家族とテレビを見るよりも、アルバイトや友達とスキーなどをして年末を過ごしています。

このコーナーの担当者：荒川洋平、小玉安恵（日本語国際センター専任講師）